

「木になるフェスティバル」開催記

企業支援部 技術支援グループ 奥山卓也

第23回木のグランドフェア「木になるフェスティバル」（主催：地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場，一般社団法人北海道林産技術普及協会）を，7月26日（土）に開催しました。当日旭川市ではPM2.5が高濃度になるおそれがあるため，外出を控えるよう勧告があった上，昼前には雨が降りはじめ，昼からはずっと雨が降り続くという屋外のイベントとしては厳しい状況だったのですが，それでも約500名が来場し賑わいました。

開会式には「林産試スタンプラリー」の台紙配布の効果もあり100名以上が集まり盛大に行われました。

主催者あいさつの後に行われたオープニングログカットには，林産試験場菊地場長，（一社）北海道林産技術普及協会高橋会長，上川総合振興局南部森林室石本室長のほか，旭川市在住の小学生の男の子にも参加してもらいました。

開会式終了後，各催事がスタートし，来場者は思い思いの催事を楽しんでいました。

各催事内容は次のとおりです。

・「シロアリの観察」

シロアリの様子をマイクロスコープで拡大して大画面に映し出し観察してもらいました。

大画面に映し出されたシロアリに子どもたちは興味津々でした。

・「木のメモホルダーをつくろう」

道産材に絵を描いてもらい，それをUV塗装後，マグネットを貼ったメモホルダーを作成しました。

・「間伐材でMy箸づくり」

トドマツ間伐材を使用し，細い棒状の木材を指の長さに合わせて切断した後，紙ヤスリで箸になるよう削っていき，最後にオイル塗装をしてオリジナルのMy箸を製作してもらいました。



林産試験場長あいさつ



主催者・来賓・来場者によるログカット



「シロアリの観察」

- ・「木を引っぱってみたら・・・（実演）」
実大材の引っぱり試験を見学してもらいました。
皆さん木が引きちぎれる時の大きな音に驚いていました。



「木をつぶしてみたら・・・（実演）」
「噴き出す水しぶぎにビックリ！」

- ・「木をつぶしてみたら・・・（実演）」
「ホットプレス」を使用し木材を押しつぶしていく様子を実演しました。
参加者は木材の形が変わっていく様子を興味深く見ていました。

- ・「木の内装 どう思う？」
ディスプレイを使って来場者に木材を施工した内装を提示し、印象を評価してもらいました。

- ・「キノコかざりをつくろう」
乾燥キノコを硬化樹脂の中に閉じこめたかざりづくりとキノコ汁体験の他、顕微鏡によるキノコ菌糸の観察やきのこの旨味等の特徴について解説しました。

- ・「バイオマス燃料について知ろう！（実演）」
バイオマス燃料に関する説明をペレット製造、薪割り、アルコールロケットの実演を交えて行いました。



「木の内装 どう思う？」
「わたしはこっちのほうがいいな。」

- ・「この木なんの木」
木を実際に触れて木の重さや色の違いを比べたり顕微鏡で観察しながら、木にはいろいろな種類があることを確かめてもらいました。

- ・「木でワクワクコンピュータクイズ」
木に関するクイズをパソコンで答えてもらい、職員が問題について解説を加えながら「参加認定書」を渡すなど木について楽しく勉強しました。

- ・「ゴムてっぽうで遊ぼう」
林産試験場が製品化にあたり技術支援した連射式ゴムてっぽうを、購入した方対象に作り方の指導と的あてゲームに参加してもらいました。



「ゴムてっぽうで遊ぼう」
「できたよ！かっこいいでしょ？」

- ・「コパールを磨こう！」

樹脂とコパール（若いコハク）について説明し、コパールを磨いた後、顕微鏡で観察してもらいました。

コパールの中には虫が入っているものもあり、人気がありました。



「コパールを磨こう！」
「虫は入っていたかな？」

- ・「木っ端で遊ぼう～自由工作コーナー～」

板や木っ端、釘などの材料と基本的な工具を準備し、自由に工作をしてもらいました。

- ・「むかしなつかし昭和の遊び」

竹馬と竹とんぼを用意し、遊んでもらいました。うまくできた子どもには賞状を渡しました。

- ・「歩くいず」

構内に林産試験場や木材に関するクイズを設置し、全問正解者には記念品をプレゼントしました。

- ・「りんさんしめぐり」

林産試験場を知ってもらうために、場内のいろいろな施設を機械の実演を見たり、説明を聞きながらめぐるので、参加者はヘルメットをかぶりながら颯爽と構内を歩いていました。



「木っ端で遊ぼう～自由工作コーナー～」
「お父さんそこ持って！」

また、林産試験場以外の方にもフェスティバルへの協力をいただきました。

- ・「木育コーナー」

「NPO法人もりねっと北海道」の協力により、丸太切り体験や木の解説をしてもらうなど、参加者は楽しく木のことについて学んでいました。

- ・「ぷちクラフトコーナー」

毎年出展協力をいただいている上川総合振興局では「木の輪切りなどの自然素材を利用した小さなクラフトづくりの場を提供する。」をテーマにクラフトづくりを行いました。

参加者は木を輪切りにしたものなどを組合せた動物パズルなどを作成していました。



「りんさんしめぐり」
「この部屋は何があるのかな？」

・ふれあいコンサート

ジャズバンドによるミニコンサートをお昼に開催しました。

雨の中約30分にわたり、サックス、ウッドベース、ピアノ、ドラムによる演奏は大変好評でした。

・「3機関連携コーナー」

上川地域道総研3機関連携として、8月2日に行われる北方建築総合研究所の「来て☆見て☆はっけん☆ほくそうけん公開デー」と8月12日に行われる「第19回上川農試公開デー農と食の祭典」のPRコーナーと各機関紹介コーナーを設置しました。

以上、今年の「木になるフェスティバル」について紹介しました。

今年は前述したように雨にたたられてしまい、来場者も前年度から比べ200名以上少ないという残念な結果となりました。

しかし、来場者のアンケートでは「とても楽しかった。」や「また来年も来たいです。」等の意見をたくさんいただきました。

特に子どもたちから「とてもたのしかった。ありがとうございました。」とアンケートに書いてもらったのは、イベントを担当した者にとって何よりの励みになりました。

これからも子どもたちの期待を胸に、いろいろな形で「林産試験場はこんなことしているんだ!」や「木材っていいものだな」など「林産試験場」や「木の良さ」について知っていただくための催事を考えていく予定です。

リピーターの方はもちろん、まだ「木になるフェスティバル」に来たことのない方々も、来年は是非気軽に遊びにきてください。お待ちしております。



「木育コーナー」丸太切り体験
「押してダメなら引いてみな。」



「ぶちクラフトコーナー」
「ボンドは慎重に。」



「ふれあいコンサート」
「雨の中の熱演」